

水俣港
日置川

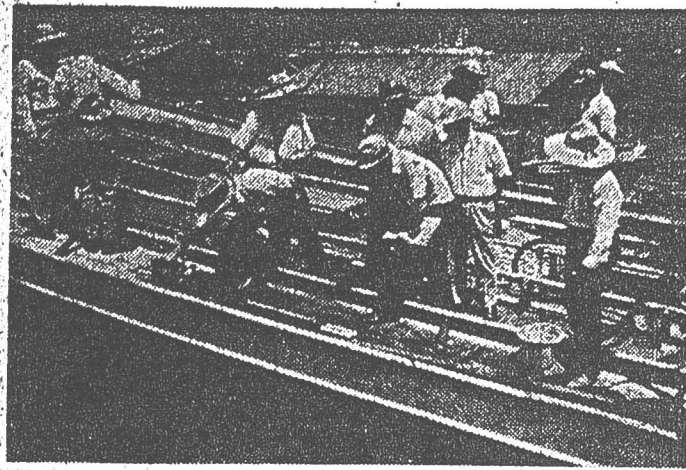
ドベの熊大調査始まる

埋立てか、浚せつか

調査団 漁船で現地を視察

水俣病の原因となった有機水銀を含むドベが大量にたい積している水俣市百間港（水俣港の一
部）と、県一の汚染河川・八代市の日置川の熊大調査（県委託）が、十七日から始まった。

水俣病と河川のドベの処理対 ーバーは熊大工学部の本車機明学部 授（化学工業）山田仁博教授（有
機）を決める調査で、調査団のメン ー長（高分子合成化学）四宮知郎教授（有機）機台成化学）江川博明教授（有機）は二隻の小型漁船に分乗、港内を



水俣港内で採泥作業を見る調査団の一行



工場排水が日置川へ流入する付近を視察する熊大調査
班（八代市古閑上町で）

工業化学 医学部 藤本素士講師
（衛生学）ら大学から七人、県か
ら非公費課長ら五人、百間港調査
は同日午後一時から始まり、一行
は二隻の小型漁船に分乗、港内を

見て回った。

ちようどこの調査と合わせて県
公害課が年に一度の採泥作業をし
ていたの、まずこれを見学し
た。同日は港内の三方所で深層部
のドベを採取していたが、明神近
くの海面からはまっ黒なドベを採
泥棒で採取。調査団も熱心に作業

を見つめていた。一帯のドベの深
さは、大型船舶のイカリのよこれ
などからみて二層七〇センチから二層
八〇センチほどと言った。

この日の調査は研究を始めるに
当たって、どう計画を立てるかの
事前調査ということで、採泥作業
を見たあとは、水俣港内を巡視す
るにとどまった。時間的にもちょ
うど満潮時で、百間排水口付近か
ら天草根（さん）橋付近にかけて
の洲も海水をたたえていた。

調査の結果は埋め立てか、しゅ
んせつかにしばらくは、埋め立
ての場合、どの付近まで埋めれば
よいかなど地元住民の関心が寄せ
られている。なお地況でも熊大市
長が顕会などで埋め立てを支持す

る答弁をしており、ドベ処理も具
体的日程にはいりつつある。

これに先立ち調査団一行は同日
午前十時半、八代市の日置川川口
から漁船に乗り込み、沖合い約一
キロまでの海域を視察した。川の水
は茶がっ色に濁り、川口の潮では
白いあわが立ち、一面火口を思わ
せるような悪臭が漂う。なまたま
干潮時とあつて底のドベが露出
し、沖合い一キロあたりまで赤く海
を染めていた。この水面にたい積
したドベ処理をどうするかが課
題。この日は船の上から見ただ
け。近く十人の熊大スタッフを編
成、浅く人物を分析したうえで、
来年三月まで処理をどうするか結
論を出す予定。このあと日置川に
そそぐ工場排水口付近も調査し
た。